

(5) スターチス

ア 殺菌剤, イ 殺虫剤, ウ 土壌消毒剤

農薬名	成分名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名													注意事項
			灰色 かび 病	炭疽 病	褐斑 病	菌核 病	うどんこ 病	萎凋 細菌 病	株腐 病	苗木 立枯 病	ヨトウ ムシ	シロイ チモ ジウ トウ	ハス モン ヨト ウ	コガ ネム シ 類	アブ ラム シ 類	
<b>&lt; 殺菌剤 &gt;</b>																
アフエットフロアブル	ペンチオピラト	F:7	花				花								花:【花き類・観葉植物登録】	
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	F:10・1	花												花:【花き類・観葉植物登録】	
サンヨール	DBEDC	F:M01	◎				◎						◎	◎		
フルピカフロアブル	マニピリム	F:9	◎				◎									
ポリオキシシンAL水溶剤	ポリキシン複合体	F:19	花				花							花	花:【花き類・観葉植物登録】	
ポリベリン水和剤	イミノタジン酢酸塩・ポリキシン	F:M07・19	◎				◎									
ロブラール水和剤	イプロジオン	F:2	◎													
<b>&lt; 殺虫剤 &gt;</b>																
アディオフロアブル	ヘルメトリン	I:3A									◎					
カスケード乳剤	フルフェノキサロン	I:15									◎	◎				
スミチオン乳剤	MEP	I:1B											◎			
ヨーバルフロアブル	テトラニプロール	I:28										花			花:【花き類・観葉植物登録】	
<b>&lt; 土壌消毒剤 &gt;</b>																
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	ダゾメット	I:8F						◎	花	花					花:【花き類・観葉植物登録】	
クロピク80 ドジョウピクリン ドロクロー	カルビクリン	I:8B						◎								

注) 苗木立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

## エ 病虫害防除法（スターチス）

### （ア）褐斑病 *Cercospora insulana*

#### （防除のねらい）

病斑上に生じた分生子が飛散しまん延するので、初発からの防除を徹底する。また、活着不良や肥料切れを起こすと発病を助長する。

#### （耕種的防除法）

- （１）十分活着させる。
- （２）肥料切れを起こさないようにする。
- （３）被害葉を除去する。

### （イ）菌核病 *Sclerotinia* sp.

#### （防除のねらい）

被害株は菌核を落とさないように持ち出し処分する。陽熱消毒の効果は高い。

#### （耕種的防除法）

キクの項参照。

### （ウ）白絹病 *Sclerotium rolfsii*

#### （防除のねらい）

発生してからは防除が困難である。

#### （耕種的防除法）

キクの項参照。

### （エ）炭疽病 *Colletotrichum capsici, Glomerella cingulata*

#### （防除のねらい）

育苗期に立枯れを生ずる。葉、茎、花に発生する。

#### （耕種的防除法）

- （１）さし芽に用いる親株は健全なものを選ぶ。
- （２）さし穂は流水できれいに洗い流す。

#### （化学的防除法の注意事項）

栄養繁殖の品種では、さし芽時から散布する。

### （オ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

#### （防除のねらい）

花茎の伸びるところから発生が多くなる。過湿で風通しが悪いと発生しやすいので、換気を行ったり、過繁茂を避けるなどの注意が必要である。また、枯死した下葉にも多発し伝染源となるので、薬剤散布は下葉にも十分かかるように行う。

#### （耕種的防除法）

- （１）被害葉・花茎は除去する。
- （２）施設内の換気を十分図る。

### （カ）株腐病 *Rhizoctonia solani*

#### （防除のねらい）

生育中・後期に株元が腐敗し立ち枯れる。活着不良や有機物の多施用は発病を助長する。

#### （耕種的防除法）

- （１）健全土壌に植え付ける。
- （２）発病株は除去する。
- （３）十分活着させる。
- （４）未熟な有機物を施用しない。

## **(キ) ウイルス病 CMV, TuMV**

### **(防除のねらい)**

病原ウイルスはキュウリモザイクウイルス (CMV) , カブモザイクウイルス (TuMV) で、アブラムシ類によって媒介される。育苗期から定植初期の感染は被害が大きいため、初期のアブラムシ防除が重要である。

### **(耕種的防除法)**

- (1) 育苗期には寒冷紗被覆する。
- (2) 発病株は直ちに除去する。
- (3) シルバーマルチ等を使用する。

## **(ク) アブラムシ類**

### **(防除のねらい)**

ウイルスを媒介するとともに、直接吸汁被害も問題となる。

### **(耕種的防除法)**

白寒冷紗被覆, シルバーマルチの使用。

## **(ケ) ヨトウムシ類**

### **(防除のねらい)**

育苗中の被害は大きいため特に注意する。早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。